

開講科目名 / Course	看護アセスメント学実習	
ターム・学期 / Term・Semester	2025年度 / Academic Year 3 学期 / Third	
開講区分 / semester offered	3 学期 / Third	
単位数 / Credits	2.0	
学年 / Year	2	
主担当教員 / Main Instructor	石田 佳代子	
担当教員名 / Instructor	石田 佳代子、内倉 佑介、三苫 美和、安部 涼子	
必修・選択 / compulsory subject	必修	
講義形態 / Class Type	実習	
授業回数	40	
科目の目的と概要	対象者と援助的人間関係を築きながら、身体面・心理面・社会面の状態を総合的に捉え、看護診断を明らかにし、看護過程を展開する基礎的能力を修得すると共に、看護職に求められる基本的姿勢を身につける。	
到達目標	1. 対象者を尊重した態度で関わることで、援助的人間関係を形成することができる。 2. 対象者の多様な側面から情報収集ができる。また、看護の視点からアセスメントして看護診断を導くことができる。 3. アセスメントに基づき個別性に配慮した看護計画を立案することができる。 4. 根拠を考え看護実践、評価をすることができる。 5. 看護職に求められる基本的姿勢を身につけることができる。	
DPとの対応	1.心豊かな人間性・倫理観、2.科学的思考力、3.看護の基盤となる専門知識・技能、4.連携協働・リーダーシップ、5.地域性・国際性、6.探求心と創造力	
授業計画	実習期間：2025年12月8日(月)～12月22日(月) 実習施設：大分県立病院、大分赤十字病院、大分大学医学部附属病院のいずれかの施設に配置。 実習方法：原則1名の受持ち患者に関わり、患者の理解を深め看護過程の展開を行う。 日々の実習目標、実習計画を立案し、臨床指導者、教員の指導のもとにケアを実施しながら、アセスメント、看護診断、看護計画、実施、評価を行う。Daily カンファレンス、中間および最終カンファレンスを実施し、課題を見出し修正する。	
その他の授業の工夫	患者や家族、看護師、多職種が活動するリアルな実習現場で、理論と実践を統合する経験ができる。適宜、臨床指導者や教員のアドバイスを個別に受けることができ、深い学びができる。	
時間外学修	2週間の実習計画を立案するとともに、日々の振り返りと、翌日の実習目標を明確にし、看護過程に関する実習記録を整理しまとめる（8h）。	
評価方法と評価割合	原則100%出席とする。実習目標の到達度（70%：実習内容、実習記録、カンファレンス内容を含む）、看護職に求められる基本的姿勢（30%：基本的姿勢は実習要項参照）により評価を行う。	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2]（医学書院） NANDA-I 看護診断定義と分類2024-2026（医学書院） 看護診断を導く情報収集・アセスメント 第7版（Gakken）	
参考書	根拠がわかる疾患別看護過程 改訂第3版（南江堂） 看護がみえる 看護過程の展開（メディックメディア） 病気がみえる 各シリーズ（メディックメディア） 経過がみえる疾患別病態関連マップ第2版（Gakken）	
履修する上で必要な要件	看護理論入門、診療補助技術論（基礎編）、第1段階実習（基礎看護学実習）、看護疾病病態論、看護疾病病態論、ヘルスアセスメント、看護アセスメント学概論、看護アセスメント学演習を、単位修得済み、もしくは単位修得見込みであること。	
その他		
教員の実務経験	有・無	有
	内容	石田佳代子：病院の看護師経験 三苫美和：病院の看護師経験 内倉佑介：病院の看護師経験 安部涼子：病院の看護師経験
教員以外で指導に関わる者の実務経験	有・無	有
	内容	病院に勤務する看護師
実務経験をいかした教育内容	臨床現場で活動する看護師と看護の実務経験をもつ教員が連携し、具体的な看護過程の展開や看護ケア、看護職としての基本的な姿勢や倫理観について教授する。	